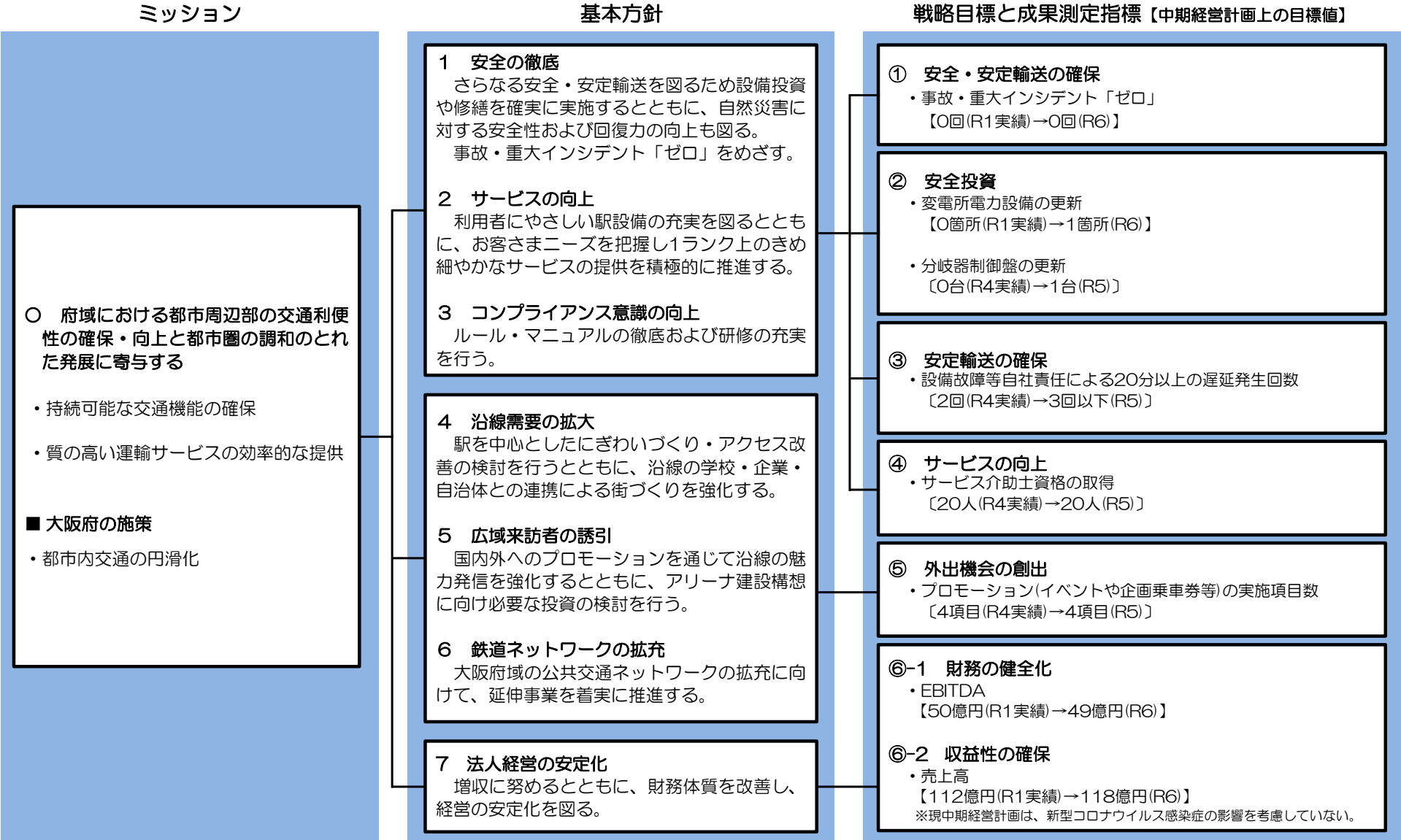


法人名	大阪モレール株式会社
作成（所管課）	都市整備部交通戦略室鉄道推進課

# ○ 経営目標設定の考え方



○ 令和4年度の経営目標達成状況及び令和5年度経営目標設定表

I. 最重要目標(成果測定指標)												
戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 [見込値]	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R2～R6)		R5目標設定の考え方 (数値の根拠) ※累積数値による目標設定の場合は、その理由も記載
										R5 目標値	最終年度 目標値	
① 安全・安定輸送の確保	事故・重大インシデント「ゼロ」		件	30	0	0	0	0	30	0	0	・鉄道事業者は安全・安定輸送が最大の使命である。 ・安全投資や維持修繕を確実に実施することにより、安全・安定輸送を確保する。 ・常に安全教育・訓練を実施し人材育成を行うことにより、安全マネジメント体制を強化する。
法人経営者の考え方(取組姿勢・決意)									戦略目標達成のための活動事項			
最重要とする理由、 経営上の位置付け	大阪モレールは、「安全な鉄道」として、お客さまから信頼される公共交通機関を目指すことが使命であることから、事故・重大インシデント「ゼロ」を最重要目標とした。 ※事故：軌道事故等報告規則第一条一項に定められた事象をいい、運転事故等報告書(第一号様式)により近畿運輸局へ報告したもの ※重大インシデント：軌道事故等報告規則第二条に定められた事象のうち、運輸安全委員会設置法施行規則第二条に掲げた事項(運輸安全委員会の調査対象となるもの)											
最重要目標達成のための 組織の課題、改善点	1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、運輸収入はR2年度～R4年度の3年間で約85億円減少する見込みであり、R5年度も16億円の減収が予想される。(中期経営計画比) ・このため、アフターコロナにおける需要見通しに応じた設備投資計画への見直しが必要となり、R5年度以降も投資時期を見直しながら、安全投資を着実に実施する。 2. 実践的な安全教育・訓練 ・R4年度は、新型コロナウイルス感染症対策を講じつつ、非常時合同訓練、テロ対応訓練、軌道事故発生時の対応訓練など、例年実施している実践的な訓練を行った。 ・R5年度も、引き続き上記訓練により社員及び組織を強化するとともに、過去事例に基づくディスカッション研修を行う。											
活動方針	1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 ②施設の更新・改良 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 ②組織の対応力強化 ③過去に発生したヒューマンエラー等を題材にしたディスカッション研修 ④委託会社等との連携強化											
	1. 優先順位を踏まえた安全投資の実施 ①最新設備への更新投資 R5年度 8月完成(工期:R2年度～R5年度) ・万博公園変電所の更新 R5年度 1台完成(9月) ・万博車両基地分岐器制御盤の更新 R5年度 1台完成(9月) ②施設の更新・改良 R5年度 係員処理端末更新:9月 ・駅務機器の更新 定期券発行機更新:2月 駅集計機更新:2月 ・光ケーブルの新設(運輸棟～豊川駅)R5年度 3月新設 2. 実践的な安全教育・訓練 ①社員一人ひとりの対応力強化 過去のヒューマンエラー・ヒヤリハット事例を共有し、ミーティング等を通じて毎月教育を実施する。 ②組織の対応力強化 大規模災害・事故、テロ発生時などにおけるお客さま救出(避難誘導)等の組織の対応力強化を図るため、沿線各消防・警察などと合同で、非常時合同訓練(10月)、テロ対応訓練(12月)、軌道事故発生時の対応訓練(2月)を実施する。 ③過去に発生したヒューマンエラー等を題材にしたディスカッション研修 事故、トラブルの未然防止を図るため、社内で発生したエラー等を題材に、主に気付きをテーマとした社内研修を実施する。 ④委託会社等との連携強化 点検や工事におけるトラブルの未然防止および再発防止を図るため、常駐している委託会社等と合同で技術部施工計画検討会を工事発注の都度実施する。											

## II. 設立目的と事業内容の適合性(事業効果、業績、CS)

戦略目標	成果測定指標	新規	単位	R4 ウエイト	R3 実績値	R4 目標値	R4 実績値 〔見込値〕	R5 目標値	R5 ウエイト	中期経営計画 (R2～R6)		R5目標設定の考え方 (数値の換換) ※累積数値による目標設定の場合 は、その理由も記載	戦略目標達成のための活動事項
										R5 目標値	最終年度 目標値		
② 安全投資	変電所電力設備の更新	☆	箇所	-	-	-	-	1	5	0	累計1 (R4目標値)	・電力設備は、運行に係る根幹施設であることから、安全投資の指標とする。	・安全を最優先に確実な工程管理を行い、R5年度に1箇所(万博変電所電力設備)の更新を完了する。
	分岐器制御盤の更新	☆	台	-	-	-	-	1	5	-	-	・分岐器は、運行に係る根幹施設であることから、安全投資の指標とする。	・安全を最優先に確実な工程管理を行い、R5年度に1台(万博車両基地分岐器制御盤)の更新を完了する。
	可動式ホーム柵の設置		駅	5	3	3	3	-	-	0	累計10 (R4目標値)	-	-
	新型車両への更新		編成	5	2	2	2	-	-	0	累計8 (R4目標値)	-	-
③ 安定輸送の確保	設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生回数		回	10	0	3	2	↓3	10	-	-	・設備故障等自社責任による遅延発生回数が少ないことは安定輸送の確保につながることから、遅延回数を指標とする。 ・20分以上は、国への報告義務の30分以上より厳しい目標値としたためである。 ・直近10年の平均値3回(小数点以下切り上げ)をR5年度の目標値とした。	・未然防止策はもとより、事後対応力強化のため実践的な教育訓練を実施する。 ・大阪府・消防・警察と連携した非常時合同訓練 ・情報伝達(発信)訓練 ・輸送障害により不通区間が発生した場合の折り返し運転訓練
④ サービスの向上	サービス介助士資格の取得		人	10	20	20	20	20	10	-	-	・多様化する利用者への対応力を強化し、ワンランク上のサービスを提供するために中期経営計画期間内(R2～R6年度)に駅係員全員のサービス介助士資格の取得をめざす。 ・R5年度も勤務調整で年間取得可能な最大20名の取得を目指す。	・R4年度と同様に、R5年度も20名の資格取得をめざす。 <参考> サービス介助士とは、「公益財団法人 日本ケアフィット共育機構」が主催し、高齢の人や障害がある人を手伝うときの「おもてなしの心」と「介助技術」を学ぶ民間資格である。
⑤ 外出機会の創出	プロモーションの実施項目数		項目	10	3	4	4	4	10	-	-	・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、企画乗車券の発売などにより、外出機会を創出する。	・R5年度に下記4項目のプロモーションを実施する。 ・観光(イベント)列車の運行 ・沿線の企業・学校・自治体との連携によるイベント ・音楽フェス&マルシェ等の開催(万博記念公園駅等でイベントを実施する) ・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売(モバイルチケットなど)

## III. 健全性・採算性(財務)、コスト抑制と経営資源の有効活用・自立性の向上(効率性)

⑧-1 財務の健全化	EBITDA(営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用)		億円	20	31	32	[42]	↓41	20	49	49	・設備投資計画の実現と南伸に向けた投資への備えのために、営業活動で生み出されたキャッシュフローであるEBITDAを指標とする。	・安全・安定輸送を図るため、設備投資や修繕などを確実に実施するとともに、サービス投資においても、財務の健全性を考慮しつつ、実施時期を見直しながら進める。
⑧-2 収益性の確保	売上高(軌道業営業収益+兼業事業営業収益)		億円	10	84	88	[98]	101	10	117	118	・安全・安定輸送を継続し、運輸収入を確保する。 ・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、企画乗車券の発売などにより、利用者の増加につなげ、売上高を増加させる。	・優先順位を踏まえた安全投資の実施(再掲) ・実践的な安全教育・訓練(再掲) ・外出機会の創出で挙げた4項目のプロモーションを実施する(再掲)

### 【凡例】

- ・☆はR4年度からの新規項目
- ・×は目標値未達成
- ・↓は前年度実績比マイナスの目標値
- ・〔 〕内の数値は、参考として記入した実績見込値
- ・( )内の数値は、当該年度の経営目標として設定していないため、参考として記入した実績値

法人名

大阪モノレール株式会社

C S 調査の実施概要

○ 令和4年度の実施結果

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	(1)委託会社 株式会社マクロミル  (2)実施方法 インターネットモニターアンケートを保有しているアンケート調査会社(株式会社マクロミル)が、調査条件に見合った回答者を抽出して、調査を実施	下記の条件の中で、1年以内に大阪モノレールを利用したことがある京都府・大阪府・兵庫県在住者 ① 最寄路線が大阪モノレール本線もしくは大阪モノレール彩都線の方 ② 最寄路線が大阪モノレール本線・大阪モノレール彩都線以外の方	(1)回収サンプル数 スクリーニング調査回収数：60,000サンプル 本調査回収数：4,119サンプル 本調査で最寄路線が大阪モノレール本線もしくは大阪モノレール彩都線の方：1,441サンプル 本調査で最寄路線が大阪モノレール本線・大阪モノレール彩都線以外の方：2,678サンプル  (2)本調査回答者・大阪モノレール利用頻度分布 ①ヘビーユーザー(週4日以上)：390サンプル(9.5%) ②ミドルユーザー(月1日～週3日)：1,125サンプル(27.3%) ③ライトユーザー(過去1年では1日～年に数日)：2,604サンプル(63.2%)	R5年2月6日(月)～ R5年2月12日(日)

実施結果の主な内容	実施結果を踏まえた取組
<p>&lt;実施結果&gt; 大阪モノレールの各種満足度は、「運行の正確性」が最も高く3.74、次いで「可動式ホーム柵の設置」の3.70、「車内の快適性」の3.62と続いた。 一方、満足度が低い項目は、「列車の運行頻度」の3.24、次いで「他社線とのダイヤ接続の良さ」の3.25、「最寄駅付近の開発状況」の3.27と続いた。(※いずれも5段階評価の平均値)</p> <p>&lt;大阪モノレールへの改善要望・希望&gt; ○運行ダイヤについて ■良い/正確/運行本数の増発要望/乗り換え時に走らないでいいぐらいのダイヤにして欲しい/乗り換えが不便</p> <p>○駅係員・運転士の案内・対応について ■良い/普通/駅員が少なく、聞ける人がいない/駅係員が少ないのは少し不安/丁寧親切に教えてくれた/係員が無愛想</p> <p>○安全や事故防止への取組について ■乗車の所にドアがあるので子供連れでも安心/通勤時やイベントなどの時は混雑し階段近辺が危ないと感じる</p> <p>○駅構内での音楽&amp;マルシェイベントについて ■良い/頻繁に実施してほしい/楽しい/イベントを知らない/もう少し大々的に宣伝しても良い/阪急や他社でも告知してほしい</p> <p>○EXPO TRAIN2025 大阪モノレール号について ■かわいい/子どもが楽しみにしている/目を引くデザインでテンション上がる/インパクトがあっよかった/知らない</p> <p>○企画乗車券について ■良い/便利/価格の値下げ希望/他社線との乗り継ぎ乗車券/阪急との接続の企画乗車券がほしい</p>	<p>&lt;大阪モノレールへの改善要望・希望を踏まえた取組&gt; ○運行ダイヤについて ■<b>行楽シーズンや沿線イベント開催に合わせた臨時列車を運行する。</b></p> <p>○駅係員・運転士の案内・対応について ■大阪・関西万博に向けて、<b>全駅社員へのサービス介助士資格の取得を進める。</b></p> <p>○安全や事故防止への取組について ■<b>老朽化した設備を更新する。(万博変電所電力設備、万博車両基地分岐器制御盤)</b> ■<b>事故、トラブルの未然防止を図るため、過去に発生したヒューマンエラー等を題材にしたディスカッション研修を行う。</b></p> <p>○駅構内での音楽&amp;マルシェイベントについて ■2025年大阪・関西万博の機運醸成の取り組みとして、<b>万博記念公園駅イベント広場での音楽と食のイベントを、引き続き開催していく。</b> ■<b>YouTubeやTwitter、Instagram等のSNSや、駅、モノレール車内のモニターや掲示板等、各種媒体を用いてイベント情報を発信していく。</b></p> <p>○EXPO TRAIN2025 大阪モノレール号について ■2025年大阪・関西万博の機運醸成の取り組みとして、<b>EXPO TRAIN 2025 大阪モノレール号を使用した観光(イベント)列車を運行する。</b></p> <p>○企画乗車券について ■<b>R5年度もお得なモバイルチケット(1日乗車券)を引き続き発売するとともに、沿線商業施設と連携したモバイルチケットを拡充していく。</b></p>

○ 令和5年度の実施方針

調査内容	実施方法	アンケート等対象者	対象者数	実施時期
利用者満足度調査	未定	未定	未定	未定

法人名	大阪モルール株式会社
-----	------------

■ 成果測定指標変更（廃止）希望の理由について

〔1〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
可動式ホーム柵の設置	駅	3

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
変電所電力設備の更新	箇所	1

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度に沢良宜駅、豊川駅、公園東口駅の3駅に設置したことで、全18駅へのホーム柵の設置が完了した。</li> <li>・安全・安定運行のための弛まぬ取組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。</li> <li>・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定運行確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。</li> <li>・R5年度は優先度の高い「変電所電力設備の更新」を安全投資の指標とした。</li> </ul>
----------------------	---

〔2〕

●変更前

R4年度の 成果測定指標	単位	R4年度の 目標値
新型車両への更新	編成	2

●変更後

R5年度の 成果測定指標	単位	R5年度の 目標値
分岐器制御盤の更新	台	1

成果測定指標の変更（廃止）を希望する理由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染症の影響により、中期経営計画における見込値よりも売上高が減少することから、新型車両などの投資計画時期の見直しを行った。</li> <li>・この結果、R5年度は車両の更新を実施しない。（R6年度は2編成、R7年度は1編成を更新する。）</li> </ul> <p>&lt;見直し後の計画&gt; (単位：編成)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>R2</th> <th>R3</th> <th>R4</th> <th>R5</th> <th>R6</th> <th>R7</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>中期経営計画（2020-2024）</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>見直し後</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>8</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全・安定運行のための弛まぬ取組みとして、更新時期を迎えた設備の最新化を行っている。</li> <li>・これらの安全投資を確実に進め、故障リスクの軽減を図り、安全・安定運行確保に努めるとともに、各年度で優先度の高い項目を安全重点施策として実行している。これらにより、事故・重大インシデント「ゼロ」をめざしている。</li> <li>・R5年度は優先度の高い「分岐器制御盤の更新」を安全投資の指標とした。</li> </ul>	年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計	中期経営計画（2020-2024）	1	3	4	0	0	0	8	見直し後	1	2	2	0	2	1	8
年度	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計																		
中期経営計画（2020-2024）	1	3	4	0	0	0	8																		
見直し後	1	2	2	0	2	1	8																		

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔1〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
設備故障等自社責任による20分以上の遅延発生回数	回	2	3

<p><b>マイナス (現状維持) 目標の考え方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備故障等自社責任による遅延発生回数については、国への報告義務の30分以上より厳しい指標としている。</li> <li>・そのうえで、R5年度は過去10年の長期的な数値をもとに、平均値3回を目標値とした。(小数点以下切り上げ)</li> </ul> <p>&lt;参考&gt;</p> <table border="0"> <tr><td>H25年実績</td><td>1回</td></tr> <tr><td>H26年実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>H27年実績</td><td>3回</td></tr> <tr><td>H28年実績</td><td>1回</td></tr> <tr><td>H29年実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>H30年実績</td><td>3回</td></tr> <tr><td>R1年度実績</td><td>7回</td></tr> <tr><td>R2年度実績</td><td>2回</td></tr> <tr><td>R3年度実績</td><td>0回</td></tr> <tr><td>R4年度実績</td><td>2回</td></tr> </table>	H25年実績	1回	H26年実績	2回	H27年実績	3回	H28年実績	1回	H29年実績	2回	H30年実績	3回	R1年度実績	7回	R2年度実績	2回	R3年度実績	0回	R4年度実績	2回
H25年実績	1回																				
H26年実績	2回																				
H27年実績	3回																				
H28年実績	1回																				
H29年実績	2回																				
H30年実績	3回																				
R1年度実績	7回																				
R2年度実績	2回																				
R3年度実績	0回																				
R4年度実績	2回																				

〔2〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値(見込値)	R5年度の目標値
サービス介助士資格の取得	人	20	20

<p><b>マイナス (現状維持) 目標の考え方</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・R2年度からスタートした中期経営計画では、1ランク上のきめ細やかなサービスの向上のため、社員研修の充実の一環で駅係員全員のサービス介助士資格取得を計画している。</li> <li>・R4年度は勤務調整で年間資格取得可能な最大20名のうち、全員が当初目標通り資格取得することができた。</li> <li>・R5年度も引き続き20名の資格取得を目標とする。</li> </ul>
--	---

■ 令和4年度実績比 マイナス（現状維持）目標の考え方について

〔3〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
プロモーションの実施項目数	項目	4	4

<p><b>マイナス （現状維持） 目標の考え方</b></p>	<p>・駅を中心とした賑わいづくり、イベントや沿線の情報発信、企画乗車券の発売などにより、外出機会を創出し、利用者数の増加につなげる。</p> <p>※R4年度実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光（イベント）列車の運行 2回運行</li> <li>・沿線の企業・学校・自治体との連携によるイベント 20回開催</li> <li>・音楽フェス&amp;マルシェ等の開催 33回開催</li> <li>・沿線施設の特典を拡充した企画乗車券の発売 8種類発売</li> </ul>
--	--

〔4〕

成果測定指標	単位	R4年度の実績値〔見込値〕	R5年度の目標値
EBITDA（営業損益+減価償却費+固定資産除却費+長期前払費用）	億円	〔42〕	41

<p><b>マイナス （現状維持） 目標の考え方</b></p>	<p>・R4年度は、コロナ禍であったため、修繕費を抑えていた。</p> <p>・R5年度は、コロナ禍による影響が回復傾向にあるため、運輸収入は増加するものの、安全・安定輸送のために見送っていた修繕整備等を実施することにより、結果的にEBITDAが減少する。</p> <p>※R4年度 修繕費 1,500百万円 R5年度 修繕費 1,678百万円</p>
--	--